

酪大で行なわれた ジャージー導入 10 周年記念行事

草の週間は、8月11日から17日にたわって行なわれ、この週間中の11日、12日には酪農大学校で、草の週間にちなんでジャージー導入10周年記念行事が行なわれた。

8月11日は、地元の協賛行事としてジャージー共進会が行なわれたが、当日は朝から雨模様で、足もとが悪く心配されたがしだいに天候は回復して10時過ぎには川上村14頭、八束村14頭、中和村6頭、湯原町9頭、新庄村5頭、美甘村5頭の出品牛が出そろい総体審査、個体審査が行なわれ比較審査ののち午後3時過ぎ審査の結果が発表された。

町村別の成績は下表のとおりである。

12日は、ひるぜん地域にジャージー牛が導入されてから10年を迎えるので、これを契機として県北のジャージー酪農をさらに協力に推進する目的で10周年記念式典が実施された。

記念式典は10時半から行なわれ、副知事および農

林部長をはじめ畜産関係者が列席し、酪農大学校講堂を一杯にうめる酪農家の意気を示して式典を終了した。

当日、知事感謝状等を授与された方々は次の諸氏である。

池田 帝 蒜山地区酪農推進協議会長

蒜山地区にジャージー牛が導入された当時村長として酪農推進協議会を設立し会長としてジャージー酪農の振興につとめた。

柴山万寿夫 中和村酪農組合長

ジャージー牛導入当時から酪農組合長として亦酪農家として酪農振興に卒先してつとめた。

遠藤 一郎 湯原町農協役員

ジャージー牛導入当時から農業協同組合役員として導入資金の貸付および酪農経営基盤の確立につとめた。

農林部長賞

若山 京 蒜山地区ジャージー酪農組合連合会長

ジャージー導入以来、酪農諸団体の育成、地域酪農振興に寄与した。

佐藤 守 川上村役場職員

役場職員として導入以来困難な事務を遂行し酪農振興に寄与した。

清水 登 川上村役場職員

同上

入沢 美 八束村議会議長

ジャージー牛導入以来酪農経営合理化の指導につとめた。

亀山 白 蒜山酪農々業協同組合副組合長

酪農家としてみずから多頭飼育経営に努力され地域酪農振興に寄与した。

岡田 毅 中和村長

ジャージー牛による酪農振興を村政の重要施作として推進した。

渋谷 忠治 北酪蒜山地区事業所長

生乳取引安定のため牛乳共販施設の整備に献身的につとめた。

渋谷 泰治 湯原町農業委員

急傾斜地に草地造成による自給飼料の増産と経営の省力化につとめた。

町村別	川上	八束	中和	湯原	新庄	美甘
順位	1	3	2	5	4	6
得点	8.7	8.2	8.6	7.8	8.0	7.2
1等	3頭	2頭	1頭	—	—	—
2等	6	3	2	1	1	—
3等	4	5	3	5	3	1
4等	1	4	—	3	1	4

知事感謝状

石賀 元恭 川上村農協組合長

ジャージー牛導入当時より農業共同組合長としてジャージー牛の導入ならびに酪農振興につとめた。

林 尚夫 川上村議会議長

蒜山地区大規模草地改良事業の重要性を卒先、啓蒙して草地造成事業の発展につとめた。

岡山畜産便り 1963.09

川崎為二郎 湯原町農業委員

草生改良、急傾斜地の草地造成の啓蒙指導につくした。

入沢 大二 八束村農業協同組合長

農業共同組合役員としてジャージー牛による酪農振興につとめた。

進 一 蒜山酪農協同組合長

蒜山酪農々協同組合長として地域酪農経営の安定につくした。

高山 敏夫 津山地区ジャージー連合副会長

ジャージー牛導入以来組合長として酪農経営合理化の指導につとめた。

小島鉄太郎 打穴牧場代表

地域農業の近代化のため卒先して協同経営による牧場建設に努力され近代的草地酪農経営の基盤を成し遂げた。

田村 毅 賀陽町吉川支所長

町における酪農振興に努力し特に草地造成改良について格段の努力をした。

小川 勇 水島酪農専務

県南部大規模草地改良に着手し卓越した技術と献身的な努力で草地を確保し地域酪農振興に寄与した。

このほか、酪農大学校長室では、副知事、商工部長、農林部長、酪大校長、県観光連盟会長、県酪連会長に地元から川上、八束両村長およびひるぜん観光協会長を加えて、酪農も独立し、また観光面でも伸びてきているひるぜんをテーマに「酪農と観光」と題して語ってもらった。

このなかでは曾我副知事は、「これからのひるぜんは観光と酪農は2本の柱だ。道路も今の既成路線を改修するだけでなく、県内を南北に貫く道路が必要であり、またそうすることによって京阪神からの観光客も増加する」と語り、また永山観光連盟会長は、「観光客の大半は都会の人で示められており、牧野で牛が牧草を食べているのを見るだけでもムードがあるだろう」と話していた。

曾我副知事は最後を結んで、「県と県民の協力でひるぜんの開発を進め、ひるぜんを全国の国立公園に負けない健全な観光地に育て、“酪農と観光のユート

ピアを作りたい」と語り座談会終了した。

一方、会場では中型常用農機具の展示と実演が催された。実演は酪農大学校裏の牧草地でモアー、ヘイ・レイキ、トラクターの実演が行なわれ、全日程を終了した。